自己評価結果公表シート

2021年度

1、法人理念

三快五感の子育て

【三快】　よく食べ（快食）　よく遊び（快遊）　よく眠る（快眠）

【五感】　目　目を大きく見開き 遠くも近くもよく見る子
耳　耳を澄まして 大小の音を聞き分ける子
鼻　鼻を利かせ 善悪をするどく感じる子
口　舌を生かし すいも甘いも理解する子
手　手を使い なんでもよく体験する子

2、願う子どもの育ち

自分の気持ちに気づき、仲間と、元気よく遊ぶ子

3、保育方針

子どもの興味は、ひとり一人で、また、その日・その時間によっても違います。本園では、その気持ちを尊重し、子どもが自ら望んだこと、ものに取り組めるよう配慮し、それぞれの子どもの意欲をのびのび育てられるようにしています。そのため、そんな個性豊かな子どもたちに対して、同時に一つのことを教え込もうとはしません。興味を持ったものが違う子どもひとり一人へ、その子にあわせた指導・支援をすることを心がけています。それによって子ども自身が自分の気持ちに気づき、自分を大切にするようになります。さらに自分と同じや違う気持ちを持つ仲間の存在を認められるようになり、その仲間と共に遊ぶことが増えます。これらを続けることで「子どもの心」が育ちます。「力の育ち」も必要ですが、まず心の育ちが大切。「心」が育った上に「力」が積み重なっていくのが、子どもの育ちであると言えます。
よく遊んだ（快遊）子は空腹感をしっかりと感じることができ、よく食べ（快食）ます。そして十分満腹となった子はよく眠り（快眠）ます。人として成長する基本、動く・食べる・寝ることを自ら主体的に行えるようになること、それが本園の教育の基本です。

4、「子どもの育ち」のために

- 子どもが何に心を動かし、何を表そうとしているかを知り、表現する喜びを十分に味わわせるようにする。
- 遊びや自然体験を通して、子どもが感動する場を大切にしていく。また、保育者も子どもと共に夢中になって遊びに取り組むことで、遊びを充実させていく。
- みんなで遊ぶ場を設け、共に遊ぶ中で、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちに気付いたりする場を生かしていく。
- 子どもの興味関心を把握し、季節や実態および狙いにあった環境を構成しながら、その場に応じた援助をする。
- 遊びの中で少しでもできるようになったことを褒め、認めていくことで意欲を持たせていく。
- 年齢に応じた基本的生活習慣の実態を把握し、子どもが無理なく身に付けることができるような環境を工夫し、援助していく。

5、評価項目の達成状況

評価項目	評価項目詳細	職員の自己評価ポイント平均（3点満点）
Ⅰ 園の基本姿勢について	教育・保育理念や目標の理解 認定こども園としての社会的責任の理解 子育て支援業務についての理解 発達の重要性を理解 職員として心構え　等	2.39
Ⅱ 認定こども園教育・保育要領	第1章　総則	2.34
	第2章　ねらい及び内容並びに配慮事項	2.47
	第3章　指導計画作成にあたって配慮すべき事項	2.45
Ⅲ 園独自の取り組みについて	保育方針の把握 学園化構想に対する理解 内部・外部研修への意欲を持った積極的な参加 市・地域の事業へ園が積極的に参加していることの理解　等	2.88

保育教諭自己チェック評価表

	視点		
	1、教育課程や指導計画等に設定した「目標」「ねらい」は達成できたか。また、前年の反省評価は生かされたか。 2、日々の教育・保育に必要な環境構成及び設定は適切だったか。 3、園児の状況に応じて柔軟な教育・保育ができたか。また、自身の教育・保育技術の向上を必要とした部分は。 4、保護者との連携は十分に取られていたか。 5、社会人として、また、教育・保育の専門家として資質向上に努め、成果を上げることができたか。　　等		
	今年度の評価点	今年度の課題点	次年度への改善点
個人評価	・研究テーマとして“園庭環境”を設定し、他の職員と一緒に園庭環境について話し合ったり、講師の先生にアドバイスをいただいて園庭に遊びの環境を作ることができた。話し合いを行ったことで、今の子どもたちに不足している発達や大切なことは何か、改めて考える良いきっかけとなった。 ・園庭では子どもたちが自然と遊びたい気持ちになるに加えて体を使って遊べるように竹やビールケース、お風呂マット、タイヤなどの玩具を新たに用意し提供してみた。使わない日を見ないほど子どもたちにも浸透している。また保育者が意図とねらいを持って運動を促せるようにサーキットを活動の中に取り入れることができた。手作りの遊具を子どもたちに提供をしている。 ・子どもたちの発達状況に合わせたり研修等で学んだことを生かしたりし、随時環境構成を改善していくことが出来たと感じる。 ・わらべうたや環境認識などの課業について、わからないことは自分で調べたり、先輩保育者やわらべうたの先生に積極的に聞いたりする中で、課業への知識を増やすことができた。周りの職員が歌っているわらべうたを積極的に聞いて教えてもらったり、研修で学んだらすぐに子どもたちと歌ったりすることで、わらべうたのレパートリーも増え自分自身も楽しみながら子ども一人ひとりとの関係を深めることができた。 ・子どもたちの成長や普段の遊んでいる姿から、課題を見つけ、簡単な遊び、少し難しい遊びを両方考慮しながら玩具や環境を少しずつ変えることができた。　・今年は運動発達の係となり、きのいいひつじや名倉先生の話、参考書を読んだりして運動発達の必要性の細かい部分を学び、実践することができた。今までも必要性を感じてはいたが、漠然とした知識のみで進めていたため、欠けている部分が多かったことを改めて気づけたと思う。　・情報発信をしたいという思いから作成したおたよりは、とても納得のいくものができた。伝えたい内容や思いを込めて作成したものが保護者に届いたことを実感することができたらもっと良いが、伝えたいことを形にすることができる満足感や、他の職員とも共有する機会にもつながり嬉しかった。・わらべうたを計画的に進め、一年を通して楽しく活動することができた。2学期に入り、みんなの呼吸が合ってきて、より一体感を感じて楽しむことができるようになり、子どもの姿の変化や成長を感じることができ、継続的に進めていく重要性を感じた。 ・はじめは乳児フリーだったので、各クラスの保育に入ることで全体の流れを把握でき、臨機応変にサポートに入っていった。空いているときには、園庭の整備や保育室の片づけを行うようにすることで、子どもも大人も安心して使いやすいようにと心がけた。	・研修で学んでことを他の職員にも伝え、共有していけるような声かけがもっとできるとよかった。 ・活プリを作る上で「言語化する」ことが難しく自身の語彙力の低さや言い回しのレパートリーの少なさを実感した。他クラスのおたよりを見ることができていなかった為、積極的に回覧するようにして、文章能力を上げていきたい。 ・制作を行い、作って完成して終わりということもあった。そこからどのようにして子どもに興味を持たせて遊びへと展開していくのか考えていく。 ・1日を通して関わっている保育者が降園対応をすることで、園や家庭で気になることなどをお互いが気軽に話せると感じた。 ・子どもを深く知るということの難しさを強く感じた。毎日関わっているからこそわかる姿もあれば、自分では気づかない姿もあり、一人ひとりに必要な支援や関りを見つけ、実践し継続していくことの難しさを感じた。 ・クラス内での生活の姿は対応できたが、トイレ（排泄）の部分では、フリーの職員に任せることが多かったので、もっとその都度様子を細かく聞いて把握したり、時には担任がトイレの対応をしていくなど、やり方の工夫をしても良かったと感じた。　・「落ち着いて遊べるように」と、言葉掛けや遊びの提供をしすぎてしまったように感じる。“言葉掛け”の大切さを感じ、子どもたち一人ひとりの力を伸ばしていけるように関waり言葉をかけたい。	・仕事の優先順位を見極めて効率よく仕事ができるように行事やおたよりなど事前事前に考えて計画性を持っていきたい。 ・マネジメントの研修で学んだ職員育成や保育におけるリーダーシップなど自分の役割・課題を見つけて、園の職員がワンチームとなり、同じ方向を向いて保育を進めていけるよう、研修で得たものを保育に生かしていく。 ・経験を重ねる中で、「こういう時はこうしよう」とわかることが増えてきたり、自分で考えて動ける場面が増えてきた反面、「どうしてこうするんだろう…」という些細な疑問も日常の中に多くあることに気づくことができた。改めて考え直したり、周りの職員に聞いてみるなど、経験する中で気になったことや感じたことをそのままにせず、自分のものにできるように、意識していきたい。 ・課業はもちろん、その他全ての活動において、何のためにやっているのか、子どもたちに何を伝えたいのか、その活動を通して子どもたちがどうなって欲しいのかを、明確にして活動に取り組むようにする。 ・保育者が同じ場所にいつまでもいるのではなく、遊びを転々としながら発展させたりつなげていく。遊び方を伝え、広げていく。 ・自らの保育について、意味や考えをしっかりもって、それを伝える力をつける。 ・次年度もコロナ感染が続くと思われる。講座が開けないところの育児知識を伝える方法を探っていきたい。 ・子どもたちが日々楽しく、安心した中で力を伸ばしていけるよう環境づくり、言葉掛けをもっと学び、実践していきたい。・子どもへの対応が中途半端にならないように保育者同士で声を掛け、フォローしあっていく。

	視点		
クラス運営評価	1、保育教諭等の間で必要な連携がとれていたか。 2、保育教諭等の間で必要な情報を共有できていたか。 3、主幹保育教諭等の上司と十分な話し合いの上で計画が作成できていたか。 4、クラスとして必要な記録を残すことができたか。 5、部屋の環境構成（物の配置等を含め）適切だったか。		
	今年度の評価点	今年度の課題点	次年度への改善点
	・上司に気軽に相談できる環境にあり、的確なアドバイスをもらえるjことで前を向いて保育するいことができたいた。 ・子どもたちの遊びや生活面など担当以外でも共通理解しているように情報交換をすることができた。　・園の経営書を定期的に振り返りながら、その時点での子どもの姿と、ねらいとを照らし合わせ、できるようになったことや個人の課題を明確にするようにした。4月からの成長の様子や変化がわかりやすくなり、働きかけもしやすくなったため、行ってよかった。来年度も継続していきたい。 ・今年度は、支援(療育)が必要な子について、子どもの里の職員に相談し、子どもの姿や保護者への対応など情報交換しながら、一緒に支援を進めてくことができて、心強かった。 ・子どものやってみたいという気持ちを大切に、声が上がったとき、すぐに取りかかることができるよう環境を整えた。いっしょに考え、作り上げる中での、気持ちの共有を大切に、子どもたちと関わった。　・コロナ禍で日々状況が変わる中で、通常の活動が難しいところもあったが、現状で何ができるかを保育者同士で話し合って考え、その都度改善しながら活動を計画、実施することができた。今まで通りとはいかないかもしれないが、子どもたちはさまざまな経験を積み重ねて、成長していることを感じている。 ・保護者とのやりとりでは、ノートや口頭でポイントを押さえてわかりやすく、個々の成長、姿を伝えるようにした。保護者の気持ちに寄り添い受け入れ、認め合い、園や自分自身の保育の思いも伝えながら、共に喜んだり考えたり共有していくことを大切にした。　・学年主任としての責任感を意識し、学年をまとめることができるよう、他学年や上司との連携を大切にした。 ・フリーが学年主任の先生だったため、クラスの子や保護者対応で困ったときに、すぐに相談できた。経験豊富な職員が近くにいてくれたのは心強かった。 ・コットやタオルなどの用意もお互いに協力し合って、保育ができたと思う。	・環境設定等、今この時にやってあげたいことができないこともあり、連携を取りながらもう少しスピード感をもってその都度対応できるとよかった。　・部屋の環境構成は、なかなか変えることができず、同じ環境で過ごす時間が長くなってしまった。子どもたちも日々成長していくため、その子たちにあった環境に合わせて変えていかなければならい。・子どもが入園し、日課の変更が出てくるときに、希望の日課が難しいと悩んだ際にも主任と相談し、アドバイスをもらい、すすめられたのは良かった。・子どもたちの遊びがどうすれば豊かになり、遊べる子に育っていけるのか今後深くまなんでいきたい。子どもたちの姿もいろいろであり、いろいろな特徴を知る中でどのような環境が必要なのか沢山考えた一年であった。活プリを活用しながらクラスで話し合うじかんをもっとつくることが必要だった。・	・年度初めから生活面を丁寧に見てあげることができるように今まで以上により細かな計画を立てていきたい。 ・話し合いの機会には自分の思っていることや考えをきちんと伝えていくようにする。 ・環境をどうしていけば良いのか、変化させていくタイミング、玩具の作り方など少しずつわかってきた所もあるので、次年度は考えてから行動に移すまでを早くしていくことを意識していきたい。・今年度同様、学年間で様々な情報を共有し、クラス間で足並みを揃えるところは揃え、クラスの様子に合わせて保育をしていくところは、そのクラスの色を出しつつ、というように、メリハリをもってクラス運営をしていけたら、と思う。 ・今年度同様、学年間で様々な情報を共有し、クラス間で足並みを揃えるところは揃え、クラスの様子に合わせて保育をしていくところは、そのクラスの色を出しつつ、というように、メリハリをもってクラス運営をしていけたら、と思う。子ども一人ひとりの発達は違うが、保育者が意識して働きかけることをし、遊びを伝えていくことが学びや経験につながっていくことを強く感じたので、年齢や月齢問わず積極的に遊びをつくったり、関わったりすることを意識して保育をしていきたい。 ・子どもの発達についての理解を深め、子どもの姿に合わせた環境設定、もっと自然物、行事を 取り入れた環境づくりに力をいれていきたい。・子どもとの関りだけでなく職員間のコミュニケーションも大切にし、保育に適した環境を作りたい。
園全体評価	1、園全体として行事の内容及び運営は目標に沿って行われたか。 2、職員の研修内容とその成果は現場に反映されたか。 3、教育・保育内容の公表に努力をしたか。また、その方法は適切だったか。 4、小学校や地域の関係機関との連携に向けて必要な努力をすることができたか。 5、園全体としての今年度の教育・保育の目標やねらいは達成されたか。　等		
	今年度の評価点	今年度の課題点	次年度への改善点
	・子どもたちの身体の発達を運動の外部講師の研修から、更に学び新しい園庭ができあがった。戸外で子どもたちが体を動かして遊ぶ姿が本当に活発になった ・今年度もコロナ禍という状況下ですべての行事を行うことはできなかったが、その時できる最善の形をと考え、話し合い、結果として、“ハレの日”でありながらも、子どもたちの“日常”っを大切にしたものとして行うことができ良かった。	・自分の思いを一人ひとりが発言できる園の雰囲気作りが大切だっと感じる。また思いを言語化することが苦手な部分として見られた ・育児担当制において基本的なことは浸透しているが、細かな面での疑問点がそれぞれあるので、職員全体で確認し合うことが必要。	・主任との連携を密にし、今の・これからの子どもたちに大切なことを考えてきたい。また、乳児と幼児がいる子ども園の利点を十分に生かし、全職員がワンチームとして保育できる力をつけられたら良いと思う。 ・園の方針を理解した上で、各保育者の個性が出てくる保育ができていくとよい ・課業を取り入れ、より具体的に幼児期に身につけたい力を身につけられるような保育を考えていきたい